骨子表（2022 版）　鋼構造及びコンクリート　Ⅲ問題用（Ⅲ－2）　令和 4 年度　建設分野においてサプライチェーンマネジメントを推進するための課題

問題	問題分析	解決の方向性	実現上のハードル	リスク対応の具体策
現状の分析、あるべき状態との差異 立場を明確に	問題の発生原因 多面的に内容と共に示す	解決の方向性、すべきこと １つ挙げ複数の解決策を述べる	波及効果と、具体化した際に起こる別の問題（2 次リスク） ※共通して新たに生じるリスク	制限事項への対応も踏まえた具体的な提案内容 ※専門技術を踏まえて回答
・サプライチェーンとは、製品の原材料や部品の調達から製造、在庫管理、配送、販売までの全体の一連の流れのこと。 ・サプライチェーンマネジメントとは、サプライチェーン全体で物と金、情報の流れを共有し連携して全体の最適化を図る手法のこと。 ・建設業においては、サプライチェーンの最適化が進んでいない。	・工事には多種多様な材料や機器が必要。 ・必要なモノが現場により異なる。 ・単品受注生産のため、発注から入荷までの待ち時間ロスが発生する。 ・受注の先読みによる製造や作り置きが困難、デッドストック化する。 ・事業者間、発注者と受注者間の工事情報共有が進んでいない。 ・サプライチェーンの高度化などの業務変革に対応できる人が少ない。 ・やりとりされる情報の電子化が不十分。 ・リアルタイムでの情報共有ができていない。	1. 工事情報の早期共有（情報） 1）発注見通しの早期共有 2）情報鮮度の確保	効果：工事計画に沿った受注計画、生産計画策定が可能、時間ロスの縮減 懸念事項：情報更新遅延 受注への影響	・定期的な情報更新の実施 ・調達方法の工夫
		2. 製作の合理化（モノ、方法） 1）Pca 化、ユニット化と規格標準化の推進 2）関係者間での情報共有推進 3）部分最適から全体最適への転換	効果:規格標準化によるデッドストック防止、製作待ち時間の短縮 懸念事項：類似意匠の増加、没個性化、一様化	・場所や対象物による使い分け ・組み方の工夫による多様化 ・表面処理の工夫
		3. 関連情報の電子化（情報、方法） 1）施工関連情報の電子化（生コン伝票など） 2）受発注者間での情報共有（クラウド、共有サーバー等活用） 3）原材料製造者との情報共有	効果：工事情報共有による効率化、各種管理の自動化、時間や材料ロスの縮減 懸念事項:機器故障やシステム不具合によるトラブルの発生	・機器メンテナンスの実施 ・バックアップの実施 ・情報通信経路の多重化
		4. 業務変革を担う人の確保（人） 1）建設業界の就労環境改善 2）教育の実施	効果：サプライチェーンの持続、業界のイメージアップ、より高度な技術への対応が可能となる 懸念事項:雇用や人材育成に関する費用の増加	・サプライチェーンの高度化を意識した予定価格の設定 ・人材育成に対する事業者への助成 ・国や都道府県等による各種研修の実施

参考：建設現場におけるサプライチェーンマネジメントの導入　国土交通省

※コンクリートなので、生コンのサプライチェーンについても触れる。